



ホームページ版
(道徳教材5篇収録)

彩の国の道徳
(中学校)

自分をみつめて

埼玉県教育委員会

自分をみつめて

のマークは、コラム「自分をみつめて」のページです。

- 私たちの郷土 埼玉県 1
- 父の一言 5
- ドクトル本多の誕生 — 本多静六の学び — 7
- 心の涼風 9
- 私たちの初詣 11
- 縦糸と横糸 — 秩父銘仙を受け継ぐ — 13
- きらめけ ぼくだけの音色 — ピアニスト 辻井伸行 — 15
- 埼玉ゆかりの偉人 17
- 人としての誇りをもって生きていこう！ 19
- ならぬことはならぬものです 20
- マナーは考えなくていいの？ 21
- 母の誘い 23
- 仮入部 25
- フェンス越しに 27
- 入試の朝 29
- ピースサイン 31
- 忘れていたこと 33

● は収録されている内容です。

- 教育に関する3つの達成目標
- 「規律ある態度」達成目標 35
- 父へのメッセージ 37
- 命のタスキ 39
- 旧芝川の再生を願って 41
- 嘆きを感謝に 43
- 埼玉の子ども70万人体験活動
- 「人はふれあうことで成長しますー」 45
- 「心のノート」からのメッセージ 46
- 心のほっとストーリー 47
- 上級学校を訪ねて 49
- 豊かな日本をめざして — 日本近代経済社会の父・渋沢栄一 — 51
- 次は清掃登山に挑戦だ 53
- 最初の公認女性医師・荻野吟子 55
- 初の全国制覇 57
- ぼくの職場体験活動 59
- 「何だっっていいんだあ」 61
- 日本一美しい学校に 63
- 光を求めて一生を — 野上の眼科医・落合芳三郎 — 65
- 日本人として 67
- 私の人生を変えたエチオピア 69
- 心に残る「子どもの本」100選 71





私たちの郷土 埼玉県

埼玉県は関東平野の内部に位置する内陸県で、東経 138 度 42 分から 139 度 54 分、北緯 35 度 45 分から 36 度 17 分に位置しています。
東西に約 103km、南北に約 52km、面積はおよそ 3,800k m²で、山地面積がおよそ 3 分の 1、残りの 3 分の 2 を平地が占めています。この広さは国土の約 100 分の 1 に当たり、全国で 39 番目の大きさとなっています。

県章



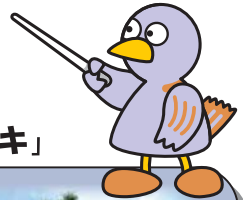
まが玉 16 個を円形にならべたものです。まが玉は、古代人が装飾品などとして大切にしました。埼玉県名の由来である「幸魂（さきみたま）」の「魂」は、「玉」の意味でもあり、まが玉は、埼玉県にゆかりの深いものとなっています。また、まが玉を円形に配置したデザインは、「太陽」「発展」「情熱」「力強さ」を表しています。県旗は県章を白地に赤く染め抜いたもので、昭和 39 年 9 月 1 日に制定されました。

県民の鳥「シラコバト」

ハト科に属しシラバト、ノバトなどとも呼ばれ、山鳩（キジバト）の仲間だが、やや小型で尾だけが長く、ほっそりしています。首に黒い横線が走っているのが特徴で、国内では、主に本県の東部地域を中心に生息しています。国の天然記念物に指定されていて、昭和 40 年 11 月 3 日に、「県民の鳥」に指定されました。



県の木「ケヤキ」



ニレ科の落葉樹で春に新しい葉とともに、うすい黄緑色の小さな花をひらきます。県内に古くから自生し、「清河寺の大ケヤキ（さいたま市）」をはじめ、各地に県の天然記念物に指定されたケヤキがあります。昭和 41 年 9 月 5 日に、「県の木」に指定されました。

県の花「サクラソウ」



サクラソウ科に属する多年草で、川のほとりや野原に自生し、春先にハート形の花びらの花を咲かせます。北海道南部から、四国沿岸まで分布し、県内でも、かつては荒川沿岸に広く自生していました。田島ケ原（さいたま市）の自生地は、今も昔ながらの面影を残し、国の特別天然記念物になっています。昭和 46 年 11 月 5 日に「県の花」に指定されました。

県の蝶「ミドリシジミ」



シジミチョウ科に属し、ハンノキやヤマハンノキの葉を食べます。埼玉県には、ハンノキが幅広く分布しているので、県内に広く生息しています。大きさは約 4 センチメートル。夏の夕方、羽根をキラキラと緑色に輝かせて飛びます。平成 3 年 11 月 14 日、「県の蝶」に指定されました。

県の魚「ムサシトミヨ」

トゲウオ科の淡水魚で、清く澄んだ小川に生息しています。現在では、熊谷市の元荒川上流部でしか見られなくなり、その生息地の一部が、県の天然記念物に指定されています。大きさは、4~6 センチメートル。オスが巣を作り、子育てをします。平成 3 年 11 月 14 日、「県の魚」に指定されました。





埼玉県が日本一



最高気温	熊谷市では2007年8月16日に最高気温40.9℃が観測されました。これは日本国内で観測された中では最も高い値なんです！
アイスクリーム	埼玉県はアイスクリームの出荷額が全国第1位（425億8,600万円）。ところで、アイスクリームには賞味期限がないって知ってました？
段ボール	埼玉県は段ボールの出荷額が1,089億9,500万円で全国第1位！大掃除や引っ越しの際に大活躍の「段ボール箱」。埼玉で整理整頓！
シャープペンシル	埼玉県はシャープペンシルの出荷額が49億200万円で全国第1位。勉強するなら埼玉県！
火災報知器	埼玉県は火災報知設備の出荷額が136億2,500万円で全国第1位。「安心・安全」のために是非準備しておきたいですね。
中華麺	埼玉県は中華麺の出荷額が210億5,200万円で日本一なんです。ラーメンもいいけど冷やし中華もおいしいですよ！
双眼鏡	埼玉県の双眼鏡出荷額は24億2,100万円で全国第1位！トラスト保全地で鳥たちのいきいきした姿をバードウォッチング！
自転車	埼玉県は自転車（軽快車・ミニサイクル・マウンテンバイク）の出荷額113億8,100万円で全国第1位！通勤・通学、アウトドアに大活躍！
生産年齢人口	15歳から64歳までの人口を「生産年齢人口」と言います。埼玉県はこの生産年齢人口の割合が69.4パーセントで日本一高い！
自主防犯活動グループ	自治体やPTAなどが中心となって、地域のパトロールを行う自主防犯活動グループ。埼玉県内のグループ数は3,773団体と全国第1位！
丸墓山古墳	行田市の「埼玉古墳群」にある「丸墓山古墳」は直径105メートル。円墳としては日本最大の大きさ！埼玉の古代人のパワーにビックリ！
埼玉スタジアム 2002	浦和レッズの本拠地「埼玉スタジアム 2002」は、サッカー専用スタジアムとしては日本一の収容人数を誇ります。
川の面積	埼玉県は、県土全体に占める河川の面積の割合が3.9%に達し、この割合は、日本一！埼玉県は水辺環境に恵まれた「川の国」です。

埼玉県ホームページ『埼玉県の「意外」・「なるほど」』より作成



埼玉応援団（コバトンクラブ）

2 ドクトル本多の誕生 — 本多静六の学び —

静六は九歳の時、父を脳出血で突然亡くした。それまでは遊び好きだった静六も、このころから生まれ変わったように、家事を手伝い、そのかたわら勉強にもさうとう励むようになった。学校の成績もぐんぐんよくなり、勉強への興味も不思議なほど出て、ついには東京へ行って勉強したいなどという考えをもつようになった。

(今の家の経済状態ではとうてい出してもらえそうもない……。)
父の死後、極度に切りつめた生活の中で、静六は近所の手伝いなどをして得たお金を進学のために蓄たくわえていた。

静六は十四歳の秋、やっと祖父の許しを得て、東京の島村先生の家に住み込むことになった。

「塙保己一はなぼりという人は、盲目であったが、六百六十余りの群書類ぐんしよるいじゆうに従したがて書いたのだ。お前が保己一のように勉強したら、もっと大きな仕事ができるはずじゃ。」

祖父の饒はなむけのことばである。

十七歳の春、静六は、新しくできた東京山林学校に入学した。貧しい静六にとって、学費の半分を国が出してくれるというのは魅力的だった。入学した喜びもつかのま、静六は、最初のテストで落第をしてしまう。懸命にがんばってきた静六にとっては初めての挫折であった。

(もう何にもやる気がおこらない……。)

落第した瞬間、今まで懸命に努力してきたこと、母や兄に苦勞をかけたことなどが瞬時によみがえり、静六は悲しみのどん底で眠れない夜を過ごした。

翌日、島村先生に落第の成績表を見ていただいた。

「動植物学も物理化学もみな良い成績なのに、数学だけが五点不足で落ちたのは残念だな。しかし、ビリで試験に通るよりは、もう一度初めから完全にやり直す方が将来のためだ。失敗は成功のもと。これからは数学をしつかり勉強しなさい。きみが一心で立ち向かったなら問題ではあるまい。この次は、立派な成績でみんなを驚かせてやれ。落第したことは、私に話しただけで、お前の役目はもうすんだ。郷里へも、誰にも一切いっさい知らせる必要はないぞ。」

島村先生はそう静六に話すと目の前で成績表を引き裂いて紙くず箱に捨ててしまわれた。先生の思いがけない行為に静六は、あつと思つたが、今までの重く暗い心も、急に明るい気持ちになり、ひそかに雪辱せつじよくへの新たな努力を決意した。



ドクトル
ドクターのこと
博士、博士号
九歳 数え年で
は十一歳との記
録がある

東京山林学校
(現 東京大学農
学部)

静六は落第してからというもの、今までも増して勉強した。各学科の筆記も最初から全部暗記した。しかし運動不足のために胃病となり、眼病にもなりかけたので、これではいけないといろいろ工夫した結果、ついに「エキス勉強法」というものを考え出した。

毎日学校で学んだ筆記を、帰ってからひと通り修正したうえ、さらに通読して、どこが一番重要なところであるかを見極め、改めてそれを数分の一ないし数十分



の一に要約して、別紙に細字で書き抜く。それが試験前になると、一学科で二〜三枚から五〜六枚くらいたまる。これをポケットに入れて散歩に出かけ、歩きながら全体の要旨を黙読または音読してみるのである。ただ一つ困ったことは、夢中で考えながら野道を歩くのでときどき牛や馬にぶつかることであった。現在は、自動車、オートバイ、自転車など交通が激しいので、本を読みながら歩くことは非常に危険であるが、当時は牛馬車が通る程度であったから、こういうこともできたわけである。とにかく試験のときは、こうして覚えたエキスに自分の常識と意見を書き足すので、じゅうぶん自分の個性を発揮した答案ができたのである。また、勉強と運動が同時にできるから、身体は丈夫になり、試験だからといって健康をそこなうことはなかった。また重要な点は全部覚えていくから、必死のはずの試験がかえっておもしろくなった。静六はその後優秀な成績で大学を卒業した。

静六は結婚後、二十三歳でドイツに留学する。当初は四年間の留学を考えていたが、費用がかかるので二年間で卒業しようと決心し、朝は六時から夜の七時まで講義を聴き、下宿に帰ってからは一心に宿題に取り組み、毎夜三、四時間しか眠らなかった。とにかく普通四カ年で習う学科を、二カ年で全部聴講し、その間に学位論文を書くというのだからその努力たるや並たいていではなかった。

そんな静六の姿に共感した先生の中には、「ドクトルの試験を受けてみないか？」と進めてくれる人もいた。大学に入って、まだ一年あまりしかたっていないのに、ドイツ人でさえ四年以上の年月を要する試験を受けるのは無理だと反対する先生もいるほどの難関であった。

静六は、ドクトルの試験のため、ドイツ語で書かれた財政原論という二百五十ページもある本を理解しようと取り組んだが、とても難しく一日半ページも進まない。（やはり、むりだろうか……）とあきらめの気持ちも出てきたが、郷里菖蒲に住む祖父の言葉が思い出された。

（死力を尽くしてやろう。保己一は六百六十余巻の群書類従の内容をこごとく頭の中へ入れてしまったのだ。たった一冊の本を覚えられないはずがない。）

いよいよ運命を決する日がきた。ドクトル試験は静六一人であったが、学校は半日休校となった。ドイツの最も榮譽ある最高学位が、やがて貧しい一人の日本人学生の頭上に輝くことになる。

日本人初の林学博士の誕生である。

参考資料 武田正三『本多静六伝』（埼玉県立文化会館）

『本多静六自伝 体験八十五年』（実業之日本社）

5 縦糸と横糸 — 秩父銘仙を受け継ぐ —

かつて埼玉県秩父市は織物産業が盛んな土地だった。堅牢で光沢のある秩父銘仙は、武家に珍重され、庶民に愛され、日本全国に知られるほどであった。しかし、いつの頃からか、桑畑が宅地や織物以外の工場などに変わり、機屋の工場から織機の音が次第に消えていった。

私は、四方を山並に囲まれた秩父の小さな機屋で生まれ育った。採光のための鋸屋根のその建物からは「バタコーン、バタコーン」というリズムカルな心地よい機織りの音がいつも聞こえていた。また、家々には赤や黄、緑や青、それに紫などに染めた糸が干してあり、色とりどりの糸束が美しく風に揺れていた。青い空と緑の山を背景にした五色の滝のような情景は、本当に美しいものだった。そんな絹や織物がはぐくまれた秩父で育った私は、自然に織物に関心を持つようになっていた。

父は頑固な機織り職人で、織物に関しては一切の妥協を許さず、黙々と作業を続けるような人だった。そんな父に、「この機屋を継ぎたい。」と伝えたのは、私が高校に入ってから間もないときのことだった。無口で頑固な父もこのときばかりはほんなにか喜んでくれた。



るだろうと思っていたが、

「お前に機織りは無理だ。あきらめて他の道に進め。」

とだけ言うと、また黙って織機に向かうのだった。予想とは正反対の父の言葉に、私は何が起こったのかも理解できず、ただ呆然としていた。そして（一人息子の自分が、後継者もないこの機屋を継ぎたいと言っているのに。そんな言い方しなくても……）と父に対して反感さえこみ上げていた。

ある日、母が食事の片付けをしながら、私に話しかけてきた。

隣の機屋からは、今ではイライラした気持ちしか感じられなくなった父の織機の音が聞こえていた。

「あの日ね、お父さんはとっても嬉しかったみたいよ。」

何のことか分からず私がきょとんとしていると

「あなたがこの機屋を継ぎたいって言ってくれたこと。」

私はさらに混乱した。

「だって、父さんは……。」

「秩父銘仙は安い外国産や洋服におされて、もう消えゆく運命かもしれない。お父さんはあの日嬉しくて涙を流していたの。でも、『秩父の織物は終わりだ。できれば継がせてやりたいが、それまでこの機屋はもたんだらう。』って……。お父さんも悩んでいるのよ。」

思ってもいなかった母の言葉に私は父をうらんだ情けなさと同時に、機屋を継いでいいものかと不安も出てきた。美しい秩父銘仙、消えていく機織りの情景、この二つが頭の中をぐるぐるとかけ回っていた。

私は父に分かってもらうために早く技術を上達させて、自分の手で銘仙を織り、父の機屋を継ぎたいと考えるようになった。大学も造形学部

堅牢
(けんろう)
かたくてじょう
ぶなさま

に進学し、染織を専攻して織りや染めの基礎を学んだ。

しかし卒業を控えた大学四年の秋、父はとうとう資金繰りがつかず、機屋をたたまざるを得なくなった。(もう継ぐべき機屋はない。)父の様子を見ていて薄々感じてはいたものの、いざ現実となると目の前が真っ暗になった。

私は秩父の織物工場で就職を目指したが、経営環境の厳しい秩父の織物業界で新卒を採用するところはほとんどなかった。友人が次々と企業への就職を決めていく中で焦りも生まれ、一般企業の合同説明会にも足を運んだ。けれど織物への強い思いは変わることはなかった。

そんなとき、父の紹介である織物工場を訪ねた。「大卒の人を雇うほどの余裕はない。」と一度は断られたが、何度も訪問し、内定を得ることができた。

織物ができるといふ喜びもつかの間、工場に勤めだしてから、自分の思い描いていたものとは違う現実に愕然とした。丸一日、機械と向き合う地道な仕事。ほとんど口を開かないで黙々と作業を続ける。また、細い絹糸についた毛羽などを見逃さないよう、常に注意し続けなければならぬ。そのため、孤独に負けない強い精神力と集中力が必要だった。

しかし、最も驚いたのはその安い給料……。分かっていたとはいえ、会社勤めの友人の半分にも満たない金額だった。私はいつもくたくたになり、いつしか服は汚れ、手の筋には染色の藍がしみこみ、とても人前に出られるような格好ではなく、工場と自宅の往復が精一杯の毎日だった。そんな状態だから、たまの休日に会う会社勤めをした友だちとも話が合わず、友の顔がなんだか眩しく見えて、次第に友だちの誘いにも足が遠くなった。そのような日が続く中、私はだんだんと思うような織物を織ることができなくなっていた。

今日もいつものように(なぜうまくいかないんだ。)と考えながら織機に向かっていた。またうまく織れない。私は思わず、普段は全く話したことのない、父のように無口で頑固な、職人氣質の木村さんに自分の織物を手にアドバイスを求めた。

「ダメだね、お前の織物は……。縦糸も横糸もよれよれだ。縦糸は物事の筋。筋は常に真っ直ぐ通っていないとダメ。縦糸がピンと張っていれば、横糸が多少よれてもなんとかなるんだよ。」

木村さんはそれだけ伝えると、また自分の織機に向かっ

て歩いていった。私はその言葉にはっとした。縦糸が乗せているのは、銘仙の大切な柄。これは秩父銘仙の歴史や伝統。横糸は時代の流れ。機屋によっては、縦糸も横糸も質を落とし、打ち込みも甘くして、時代に流され、消えていったところも少なくはない。まさに今の自分と同じではないか。銘仙もそうだが、自分こそ、常にしっかり縦糸を張って、横糸を織り込んでいかなければならない。今はただ無心に縦糸を真っ直ぐ張ろう。

(今まで自分は何を迷っていたんだろう。)

そう思うと目の前がパッと明るくなったような気がしてきた。あらためて織機の前に立った自分には、職人としての緊張感が溢れているように感じられた。



打ち込み
生地は縦糸と横
糸を交互に編む
ことで作られる
打ち込みとはそ
の織り込みの密
度のことという。



江戸時代に盲目の国学者として活躍

はなわ ほきいち

塙 保己一 (1746～1821)



写真提供：本庄市教育委員会

塙保己一は、^{えんきょう}延享3年(1746)に^{ほきの}保木野村、現在の本庄市に生まれました。7歳で病いのため失明し、12歳で母を亡くしました。15歳の時に江戸へ出て、その後学問の道を目指しました。

^{あんえい}安永8年(1779)から、全国に散らばっていた多くの古い記録や史料を集めて分類、整理を41年間に渡って行い、666冊にまとめて出版するという大事業を成し遂げました。

これが『^{ぐんしよるいじゅう}群書類従』であり、今でも歴史研究に活用されています。

ヘレン・ケラーが来日して講演した際、塙保己一を「私の人生の目標とした人であり、心の支えです。」と語っています。 資料 p43「嘆きを感謝に」 (埼玉の偉人ホームページより)

日本の資本主義の基礎を築いた大実業家

しぶさわ えいち

渋沢 栄一 (1840～1931)



写真提供：渋沢史料館

渋沢栄一は、^{てんぽう}天保11年(1840)に^{ちあらいじま}血洗島村、現在の深谷市に生まれました。

^{けいおう}慶応3年(1867)に渡欧して西欧先進諸国を歴訪し、経済制度や近代的技術を目の当たりにしました。帰国後、明治新政府に出仕して、租税事務の処理、新貨条例・造幣規則、国立銀行条例の起草立案などに当たりますが、ほどなく実業界に転進しました。

常に「論語」を処世の基本理念とし、道徳経済合一説を唱え、第一国立銀行をはじめ、鉄道・製紙・造船など500社にもものぼる企業の設立・育成に関わりました。また、福祉や教育などの社会事業にも熱心に取り組み、600余りの社会事業に力を注ぎました。

資料 p51「豊かな日本をめざして」 (埼玉の偉人ホームページより)



日本で最初の公認の女性医師

おぎの ぎんこ
荻野 吟子 (1851~1913)

荻野吟子は、嘉永4年(1851)に^{たわらせ}俵瀬村、現在の熊谷市に生まれました。東京の病院に入院し、婦人科の治療を受けたことがきっかけで、女性医師の必要性を痛感し、医師を目指して勉学に励みました。



写真提供：熊谷市教育委員会

しかし、当時、医師開業試験は女性に認められておらず、そのため制度の改革から取り組み、自身で拓いた試験の道を第一回目で合格し、日本で最初の公認の女性医師となりました。開業医として熱心に治療にあたったほか、女性の地位向上や衛生知識の普及にも大きく貢献しました。

資料 p55「最初の公認女性医師 荻野吟子」（埼玉の偉人ホームページより）

日本の公園の父

ほんだ せいろく
本多 静六 (1866~1952)

慶応2年(1866)南埼玉郡河原井村、現在の久喜市(旧菖蒲町)に生まれました。



写真提供：久喜市(旧菖蒲町)

明治32年(1899)わが国最初の林学博士となり、近代林学の基礎を築きました。また、日比谷公園や大宮公園の設計、明治神宮の森の造営などを通じて、近代的な造園技術の発展に大きな足跡を残しました。

さらに、昭和5年私財を投じて取得した秩父、中津川の山林 2,631.52 ha を、県に寄付しました。ここから生じる収益をもとに昭和29年、「本多静六博士奨学金」が設けられ、平成20年7月末日現在までに1,600人を超える学生に貸与されています。

資料 p7「ドクトル本多の誕生」（埼玉県民手帳より）



人としての誇りをもって生きていこう！

鳥は大空でしか鳥らしく生きることができないように、人は人間関係の中でしか人間らしく生きていくことができません。

おたがいが幸せを実感しながら豊かな気持ちで生きていくために、私たちはどのようなことに心がけて生活すればよいのでしょうか？

1. 人に迷惑をかけない

私たちは、知らないところで他の人に迷惑をかけながら生かされているとも言えます。迷惑をかけることすべてが、わるいことばかりではないにしても……。

他人を思いやることで、みんなの笑顔が広がります。されてイヤなことは他人にもしない。当たり前のことを当たり前に行える……。

2. 自分がしてほしいことは人にもしない

3. みんながおこな行った場合を考えて判断する

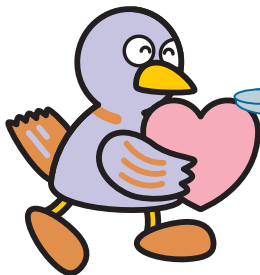
「自分さえよければ」と思ったことはないですか？「自分だけなら許される」という気持ちでみんながそのように行動したら、大変なことに……。

人が10人集まれば10通りの意見があります。自分の考えや行いが結果としてどうなのか良く考えることも大切です

4. 理由が正しいと思ってもその結果も考えてみる

5. 自分で決めて自分で守る

「みんながやってるよ」、「〇〇さんもそう言った」じゃあ、あなたの考えは？みんなの意見は参考にする。けれど、自分の責任と正しい判断で生活したい。



「自分のほこり」って？明るさ？やさしさ？体力？まじめさ？決断力？それとも…ムズカシイ…

これからあなたが会う多くの皆さんがあなたを待っています。今のあなたのがんばりを応援しています……。



「ならぬことはならぬものです！」

どんな時代でも……

共通の規範(社会のルール、マナー)がありました。

「規範」(きはん) ……人間が行動したり判断したりする時に従うべき判断のものさし

【「ひびのおしへ」(抜粋)】

ちちははをうやまい、これをしたしみ、そのころにしたがうべし
ひとをころすべからず
けものをむごとりあつかい むしけらをむえきにころすべからず
ぬすみすべからず
いつわるべからず
うそをついてひとのじゃまをすべからず

(福沢諭吉が自分の子どもたちに示した教訓)



【「什(じゅう)の掟(おきて)」(抜粋)】

年長者の言うことに背(そむ)いてはなりません

虚言をいふ事はなりません

卑怯な振舞をしてはなりません

弱い者をいぢめてはなりません

「ならぬことはならぬものです。」

会津藩士としての心構えを定めたもので毎日子どもたちが最後に、「ならぬことはならぬものです」でしめくり誓っていた。什とは「十人」を一単位とする組織のことです。

【「江戸しぐさ」(抜粋)】

江戸しぐさは、動作に限らず、言葉や表情、考え方など、お互いを尊重し、気持ちよく生活しようという願いが込められた、江戸に暮らす誰もが身に付けていたルールやマナーのことです。

「肩引き」(かに歩き)

狭い道をすれ違う時には、一方の肩を引き、横歩きしてお互いが気持ちよくすれ違えるように歩くしぐさ。

「七三の道」

道路の七分は公道、三分が自分の歩くスペースと考えて歩くことで、急ぐ人が楽に通れるための気配り。

「こぶし肩浮かせ」

川を渡る乗り合い舟では、後から乗ってくる人のことを考えて、こぶしについて腰を浮かせ、席を奥へ奥へとつめるしぐさ。

鷹は飢えても穂を摘まず

(たかはうえてもほをつまず)

肉食のタカは、どんなに飢えても稲の穂を食べることがないように、品性が高く高潔な人物は、たとえ生活に困っても不正なことには手を出さない、というたとえ。

ならぬ堪忍 するが堪忍

(ならぬかんにんするがかんにん)

我慢できないところをじっと我慢するのが、本当の堪忍というもの。

いけないこと。どうしていけないのかなんて、理由はない。
「ならぬことはならない。」その理由はいらない。
考えてみても、その理由はないのです。
ダメなものはダメなことなのです。
人をいじめること。暴力をふるうこと。盗むこと。人を傷つけること……。


習慣は第二の天性なり

(しゅうかんはだいにのてんせいなり)

身についた習慣は、生まれつきの天性のように人の言動を強く支配する力を持つという意味です。古代ギリシャの哲学者の言葉です。




「学力」「規律ある態度」「体力」の基礎・基本

 あなたの身に付いているよい生活習慣はどんなことですか？

世界中の人々が、健康で幸せな生活をしたい、そして長生きをしたいと願っています。そして平和な世の中を望んでいます。日本は世界一の長寿国です。

平均寿命とは、出生時（0歳）の平均余命（その後生存できると期待される平均年数）をいいます。日本は、2009年の統計では、男性の平均寿命は79.29年、女性の平均寿命は86.05年で過去最高となっています。男性はアイスランド、スイス、香港に次いで第4位、女性は24年連続世界第1位でした。人口が1億人以上の国では日本の平均寿命が際立っています。

出典 総務省統計局刊行、総務省統計研修所編集「世界の統計 2009」他

 挨拶（あいさつ）には、いろいろな種類があります。

「禮」という字を使用したときの「あいさつ」

豊かな自然の恵みや人々への思いに応えるあいさつ。周囲への感謝、人間の力を超えた恵みへの感謝のあいさつといたらよいでしょうか。食事の前の「いただきます。」「ごちそうさまでした。」や行事が無事に終わって「ありがとうございました。」、子どもが健やかに育って「ありがたい。」など、感謝の気持ちを込めてのあいさつということになります。

「挨拶」という字をあてた「あいさつ」

「挨」も「拶」も共に「胸をたたく」、「押し返す」といった意味です。「一挨一拶^{いちあいいちさつ}」が語源で、道元は寺の学問所では、師家（教師）が、「しっかりがんばろう」と弟子の胸をたたき、弟子がそれに応じて「はい、がんばります。」と師家（教師）にその意志を伝える姿だといっています。今日での日常のあいさつのようなものです。

「節」という字を使用するときの「あいさつ」

礼節をもって人に接するとか節度をもって生活するといった自分自身への問いかけの意味をもったあいさつです。授業のあいさつは、教師や級友へのあいさつでもありますが、他に休み時間と授業への区切りをつける、気分を入れ替える自分自身への問いかけのあいさつです。行事の時の「一同礼」は、「節度」の意味です。

「規律ある態度」達成目標

けじめのある生活ができる

時刻を守る

身の回りの整理整頓をする



「凡時徹底」
あたりまえのことを
徹底し続ける 大切さ

礼儀正しく人と接することができる

進んであいさつや返事をする

ていねいな言葉づかいを身に付ける



幸せになる心 それは
「ごめんなさい」「よかったね」
「ありがとう」が言えること

約束やきまりを守ることができる

学習のきまりを守る

生活のきまりを守る



きまりや約束を守る人でありたい
自分のために
自分が自分でいられるために

約束は 人と人を結ぶ
決めごと
約束を守るとは 誠実の証し

だれが決めたわけではない
だれが決めたわけでもない
そんなきまりも
世の中にはある

きまりは 人と人を結ぶ
決めごと
きまりによって
守られているということ

17 嘆きを感謝に

第一場（江戸への途上）

盲目の少年・辰之助（後の塙保己一）と若い絹商人の二人が、中山道を江戸に向かって旅をしています。商人は絹織物の荷物を重そうに背負い、少年は腰に巾着をさげ、背中にわずかな着替えが入った素麺箱、右手に杖、左手を商人の肩において、何やら話をしながら歩いている。

商人 もうじき宿場につきますよ。お前さんも、目が悪いのによく歩きなさる。思ったより足がたつしやだ。……よく歩きなさる。感心したものだ。

少年 足の速いあなたに迷惑をかけてはいけなないと、そればかり心配しています。あなたのお陰で、わたしは江戸に出られるのですから。

（旅の途中、二人の会話ははずんでいる）

少年 夕方の景色がさぞかし美しいのでしようねえ？

商人 それはいい夕焼けですよ。……いやいや……、それほどでもない。

（商人は少年の目が見えないことを気づかって、景色のことに触れまわいとしている様子……）

少年 わたしの目のことを気づかうのはやめてください。もう目が見えないことを悲しんではいけません。どうぞ、景色のことをいろいろ話してくださいな。わたしはその方が嬉しいんですよ。

（二人は歩きながら、話はずみ、互いに将来の夢を語りあっている。

少年は「検校様になる」、商人は「侍になり、お奉行様になるのが夢だ」などとたわいなしなおしゃべりをしながら歩いていく。一方、盲目の少年と商人という見慣れない二人連れの話をお聞きしていた悪童たちのからかう声）

悪童 お前たちが、江戸町奉行や検校さんになれるなら、俺たちももつと偉い若年寄や大目付になれるぞつ……。やーい、やーいつ。

（悪童たちはやしたてる声に、カッとなる商人を少年はまるで悟りでもしてるかのように、逆になだめている。そして、からかいの笑い声がいつそう激しくなる）（幕）



第二場（江戸の平河天満宮の境内）

雨上がりの参道の木立ちの中に店が並んでいる。中央に『版木師・前川』という看板のかかった店先。主人の前川と職人数名がのんびりと仕事をしている。一人の子どもが職人たちと立ち話をしている。

男の子 おじさん、今朝はあの先生はまだお参りに来なかったかい？

職人 先生だって？いつも何をバカなことを言ってるんだい。俺たちや、忙しいんだ。あんなやつ番なんかしていられるものか。第一、お前

が「先生、先生」っていうのも気にいらねえや。今日は雨が降っていたから、目が見えねえんじや、動けねえーんだろうよ、……きつと。

（そこに保己一が右手に杖をつきながらやって来る。職人たちに加わり、悪童どもが一緒になって、大声でからかったり、そのしぐさを真似たり、挙句の果てに、指で水滴を保己一の顔にはじいたりしている。彼らのからかいを無視して、前を通り過ぎる……しばらくして……お参りからの帰り、運悪く『版木師・前川』の店の前で、下駄の鼻緒が切れ、どうすることもできず、思案にくれている。店の者に向かって保己一は鼻緒をたてるものをくれるように懇願している。しかし、店の者は聞こえない素振り、……一瞬冷たい沈黙が続く。もう一度乞うのだが、その返事は……）

主人 うるせーな。こっちは忙しいんだ。これでも持ってとつと消え

失せろ！

（主人の前川は保己一に向かって、穴空き銭に通す紙製の「さし」を投げつける。その辱めに耐えるかのように天を仰ぎ、しばらく動かない。自分の体に投げつけられた「さし」を手探りで探しあて、しっかりと握る。静かに下駄を脱ぎ、片手にぶら下げ、裸足で足早に上手に去る……）

保己一 私が生きている意味は

あるのか……。この辱めは、

「発奮せよ」という天神様の

お導きにちがいない……。



第三場 （検校塙保己一邸の書院）

見るからに国学の第一人者としての風格を漂わせた保己一が弟子と話をしている。『群書類従』の校正・編集の仕事もはかどりと、いよいよ出版の段取りに入り、それまでの苦労を振り返り、しみじみ語り合っている。今日は、版木師を呼び、仕事を申し付ける段取りになっている。まもなく版木師がやって来たことを、弟子が保己一に告げる。その版木師の名は「前川」。

（職人風の老人が盛装をし、保己一の前にひれ伏している。「前に進むように」という声に、おそろおそろの前進む。当代きつての高名な学者・塙保己一の仕事をもらえるとあって、その光栄と感激でここに堅くなっている）

保己一 大切な事業ですから、抜け目なく頼みますよ。

前川 へいへい、名高い塙検校先生のお顔を拝見しただけでもう結構ですから、欲得離れてお引き受けさせていただきます。

（全身が震えている）

保己一 あなたは五十年ほど前、麴町の平河天神の境内に住んでいま

たね。

前川 へい、その通りでございます。どうして先生はご存じで？

保己一 その頃、目の見えない若者が毎日お参りにきたのを覚えていますか？

前川 ……ええ、ええ……。思い出しました。まあ、生意気なやつで、身の程知らずもいいたこでして……。へえ、……。学問なんぞをやっているとかで。

保己一 これを覚えていたかね。（保己一はたもとから、古びた「さし」を取り出す）あの時の「身の程知らず」がわたしです。雨あがりの日、お前の店の前で、下駄の鼻緒が切れてしまった。目が見えないというのは実に情けないもので、どうにもならない。わたしをいつもからかっている人たちとは知りながら、鼻緒を立てる布切れを分けてほしいと必死に懇願したのだが……。冷笑のあげく投げ捨てたのがこの紙の「さし」。家にたどり着いて、しばらく考えた。

「恨んじゃいけない、恨んじゃいけない。天神様が発奮するよう、お導きになっているのだ」と。お前はくじけそうなたしを発奮させてくれた恩人ですよ。皮肉や面当てで言っているのではない。本当に、天神様のお導きだと感謝して居るのですよ。

前川 もつたいない。どうぞつ、……。お許しください。この上は、手前は命に代えても立派にこの仕事をやってのけます。

（前川はおいおい男泣きする。しばらくの沈黙の後、検校、静かに庭に下り立ち、庭のかたすみの天満宮の祠にたたずんで参拝する）〈幕〉



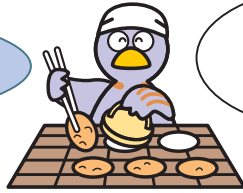
塙 正一 『奇跡の人・塙保己一』（埼玉新聞社）

人はふれあうことで成長します!

私たちの生活を豊かにするもの。それは、人とのふれあい、自然とのふれあいです。私たちはふだんの生活でもいろいろと体験しています。

私たちは職業体験活動によって地域の方々から、またボランティア活動や自然体験活動、清掃活動などを通して大切なことを学んでいます。

職場体験活動

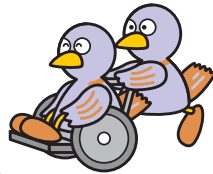


食品関係は
清潔第一!



上里町・上里北中

真剣に取り組
んでいます!



志木市・第二中

文化芸術体験



東秩父村・東秩父中

ボランティア活動

みんなが使うミラー
これで安心だよ!



寄居町・城南中

保育体験活動



三芳町・三芳東中

自然体験活動

私たちが作ったお米だ
よー! 新米だよ!



越谷市・北陽中



所沢市・東中

公園内の清掃活動



行田市・太田中

学校や地域の実態に応じて、体験活動が実施されています。積極的にチャレンジしてみよう!



「心のノート」からのメッセージ

- 24のセンテンス -

「心のノート」は、みなさんに身に付けてほしい道徳の内容をわかりやすく表し、道徳的価値について考えるきっかけになればと文部科学省が平成14年から配布しているものです。内容について紹介しますので、ぜひ、参考にしてみてください。

自分を見つめ伸ばして

- 自分自身 -

- ・心もからだも元気でいよう
- ・目標に向かうくじけない心を大切にしたい
- ・自分で考え判断してやってみる
- ・理想をもって前向きに生きよう
- ・比べてみようきのうの自分と

またえよう！君の
心のアクセルとブレーキ

日々成長する自分でいたい

思いやる心を

- 他の人とのかかわり -

- ・心を形に表していこう
- ・温かい人間愛につつまれて
- ・友という生涯のたからものを
- ・異性を理解し尊重して
- ・認め合い学び合う心を
- ・人々の善意や支えにこたえたい

君の友だちは
あなたの心を映し出す鏡

今、人権感覚を磨くとき

この地球に生まれて

(隠し)

- 自然や崇高なものとのかかわり -

- ・限りあるたったひとつの生命だから
- ・自然のすばらしさに感動する人でありたい
- ・良心の声を聞こう

実るほど頭を垂れる
稲穂かな

自然に感謝、生かされている自分

社会に生きる一員として

- 社会や集団とのかかわり -

- ・法やきまりを守る気持ちよい社会を
- ・つながり合う社会は住みよい
- ・不正を許さぬ社会をつくるために
- ・仲間がいてキラリと光る自分がある
- ・私たちの力を社会の力に
- ・大切な家族の一員だから
- ・自分の学校・仲間に誇りをもって
- ・郷土をもっと好きになろう
- ・この国を愛しこの国に生きる
- ・世界に思いをはせよう

築いていこう みんなの笑顔輝く
わたしたちの社会

規範意識を高めていこう
One for all, and all for one.
一人はみんなのために
みんなは一人のために

19 豊かな日本をめざして

— 日本近代経済社会の父・渋沢栄一 —

日本は世界の中でも豊かな国といわれています。確かに物質的な豊かさでは他の国よりも豊かです。生活も便利になりました。

しかし、お金に関係した事件が多発しています。万引き、ひったくり、強盗事件や詐欺事件など連日のように報道されています。大手の会社が、産地や賞味期限を偽装して消費者をだましたとされる事件、ネット社会が広がり、簡単に個人情報流され、見知らぬ人からの誘惑や、振り込め詐欺などの事件に巻き込まれるケースも後を絶ちません。

犯罪者の中には、（騙される方が悪い。）と言わんばかりの手口で、犯罪に手を染める大人もいます。普通感覚なら、（そんなうまい話があるはずがない。）と思うのですが、手口が巧妙なために簡単に口車にのってしまい、いつの間にか悪事の片棒を担いでいる若者もいると聞きます。

私たちは、このような今の日本の現状をどのように考え、生活していけばよいのでしょうか？

埼玉県には、深谷市出身の実業家で、「日本近代経済社会の父」

といわれる渋沢栄一がいました。彼が生まれた一八四〇年は、まさに封建社会も終わりに近づいた時節でありましたが、当時はまだ士農工商といった階級制度で成り立っていた時代でした。栄一は農家で生まれ育ちましたが、この階級制度に疑問を感じていました。特に、お金を取引したりする商人の地位は低いものでした。彼は、やがて商工業の世界に身を置き、国を富まし、官尊民卑（政府・官吏を尊んで、人民をいやしむこと）を退け、商工業者の地位を向上させていくのです。

渋沢栄一は若い頃、幕臣としてパリ万国博に随行し、進んだヨーロッパ文化に感銘を受けたそうです。一八六九年に大蔵省（現財務省）に入省しましたが四年で辞めてしまいました。銀行を発足させた栄一は、民間の事業を盛んにしようと努力しました。少年時代から愛読していた『論語』を道しるべに商売を始めたのです。（社会に本来に必要な事業をおこして、みんなで、合理的に利益があがるようにしよう。庶民が豊かになることが、国を豊かにすることになるのだ。）と確信していました。

とはいっても、「金もうけには手段を選ばない」というのもよくないことだ。だから、その中間にものごとの真理があると栄一は考えました。

「論語と算盤（そろばん）の間をめざす。」

（度量や品性に欠ける人は儲けることだけに走ってしまいがちである。商工業者はお金を扱う仕事だからその危険は大きい。商工業者にとっては、誠の心こそ必要なものであり、信用を得ることが大切なのだ。そう考えてみると、「論語と算盤（そろばん）」は対立するものではなく、むしろ両立させなければならぬものなのだろう。）

この考え方を栄一は、「道德経済合一説」とよんで、生涯、自分の説を曲げませんでした。

栄一は、第一国立銀行の総監役を務めながら、事業を次々に実現させていきます。まず、取り組んだのが製紙会社でした。栄一は、

（日本はヨーロッパやアメリカの文明を輸入しなければならない。そこで第一に考えられるのが文運だ。文運が進歩しなければ、一般社会の知識も発達しない。製紙が発達すれば、すべての事業も栄えるだろう。）

と、考えました。製紙事業の途中から、ガス事業にとりかかった栄一は、これを成功させると、次の目標を人造肥料にしました。

農村出身の栄一でしたから、肥料のことはいつも気にしていました。売上げが上向いた明治三十一年五月三日、新工場が火事で焼きました。工場建設で莫大なお金をかけ、売上げも伸びないので採

算が合わない、八方ふさがりの中で解散の声もありました。

（国家のために、今、これを止めてはいけな……。）

栄一は頑張り通しました。そして、第一国立銀行からお金を融通して難局を切り抜けることができました。

明治の初期、どんな事業も新政府の協力なくしては創設できません。事業のリスクがあまりにも大きすぎたからです。第一国立銀行は、新政府の後押しがあったからこそ発足できたのです。財を蓄えるという気持ちがなく、人々の面倒見がいいという栄一の評判が、新政府の首脳の信頼を勝ち取った結果でした。

渋沢栄一。正に今日の豊かな日本を築いた第一人者です。日本を本当の豊かな社会にするために、「みんなの幸せ」を一番に考えた人でした。



写真提供：渋沢史料館

参考文献 堺 正一「埼玉の三偉人に学ぶ」（埼玉新聞社）

山岸達児「渋沢栄一のこころざし」（銀の鈴社）

文運
文化、文明が発
展しようとする
気運。学問、芸
術が盛んに行わ
れるさま。

21 最初の公認女性医師・荻野吟子

年号が明治と変わった維新の年、荻野吟子は若くして、熊谷の名家に嫁ぎました。数えで十八歳（満十六歳）のときでした。しかし、不幸なことに結婚後まもなく病気にかかりました。この病気が吟子を一生の間、苦しめることになったのです。

実家に戻った吟子は、離婚し、治療のために東京に出ました。しかし、婦人科の治療を受けた病院で、女性として、耐えがたい経験をします。男性の医師や医学生の前に、自分の体をさらさなければならなかったからです。

（女の医師がいれば、こんな恥ずかしい思いをしないで済むものを。）
このとき、吟子は、日本に女性の医師がいらないことを疑問に思い、その必要性を痛感したのです。気の弱い女性は病院にも行けず、手遅れになる……。このつらい経験を一人の女性として、是が非でも自分が医師にならなければならぬ、そんな使命感に駆られたのです。

退院した吟子は故郷に帰り治療を続けながら学問に励みました。しかし、家族にはなかなか打ち明けることができません。女性には学問はいらない、むしろ女性の幸せには学問は邪魔になる……。女性に学問を考へれば、やむを得ないことだったのかもしれない。男尊女卑の封建的な風潮に支配された時代でした。まったく無謀なこととは思え

なかつたのです。しかし、吟子の、（自分が立ち上がらなければ。）という熱い思いは、もう誰も止めることはできませんでした。



吟子は国学者として、また漢方医として高名な井上頼圀の門に入るこ
とになりました。二十三歳の時のことです。井上のもとで吟子の才能は
開花していきます。吟子は一年ほど甲府の私塾の教師となった後、東京
女子師範学校（現お茶の水女子大学）で学びました。そして二十九歳に
なり、卒業間近の吟子は、教師になる道は選ばずに、医学校への進学の
機会をうかがっていました。「女子は受け入れていない。」という情勢
の中で、吟子は好寿院という医学校に入学する幸運に恵まれました。

ただ一人の女性ということで、時には露骨な嫌がらせもされました。
しかし、利根川の河原で育つ雑草のように、踏まれても、風塵をかぶっ
ても、強靱に生い育つ、まさに吟子はそのような女性でした。このよう
な毅然たる吟子の態度や小柄で清楚な雰囲気、いつしか学生たちも男
女の偏見を捨てて、「荻野君」「吟子君」と、親しく声をかけるよう
になり、時にはミルクホールなどにも一緒に行くようになりました。吟子
にはこれが励みとなって、さらに勉強に励むようになりました。

明治十五年、抜群の成績で好寿院を卒業しました。時に吟子は三十二

井上頼圀
（いのうえよりくに）
江戸幕末・明治
時代の歌人・国
学者・皇漢医・
文学博士

ミルクホール
牛乳やコーヒ
・パン・ケーキ
などを供した軽
飲食店。明治末
期から昭和初期
にかけて流行し
た。

歳。医師になろうと決意して故郷の依瀬村を後にしてから実に九年が過ぎていました。勉強一筋に過ごしてきた自分を振り返って、よくもここまでがんばったものだ、自分が愛おしく、感慨ひとしおのものがありません。

好寿院を卒業した吟子は、さっそく医院開業の試験を受けようと東京府（現東京都）や埼玉県に願書を提出しました。しかし、いずれも届いたのは「願書却下」の通知でした。女性というだけで願書さえも受理されませんでした。（女というだけで職業が差別されている……。）

明治時代になっても制度上の壁が吟子に高く立ちふさがっていたのです。翌年にも吟子は、再び東京府と埼玉県に受験願書を提出しましたが、結果は同じでした。ならばと吟子は国の役所に請願書を提出しました。しかし、ここでも「却下」というつれない返事だけでした。ここにきて吟子の憤りは頂点に達します。

（どうして女性というだけで、この世は私を受け入れてくれないのか。）
それでも吟子はあきらめずに、女性に医院開業試験の許可を得るための運動を続けていきました。

明治十六年十月に、来年一月より施行される「医師免許規則」が公布されました。その条文を読むかぎりでは、女性に受験資格がないなどの記述はありません。

明治十七年四月、吟子は、当時、政府の医事関係者を訪ねました。また、親交のある人たちには、日本でだめなら外国へ行って資格を得て日

本に戻り、開業するしかないとも語っていたようです。そのような時に、吟子は、井上頼圀の『令義解』の講義で、「女性医師」について書かれている箇所を学んだことを思い出しました。平安時代に作られた養老令の注釈書『令義解』巻八の『医疾令』という最古の医事法令に「女性医師」についての記述があったのです。そこでかつての師頼圀は、吟子の依頼に応じて、政府の医事関係者に、わが国にも女性医師の前例があることを証明してくれたのです。もはや女性の医院開業試験の受験を拒む理由はなくなりました。

そして、とうとう女性にも受験の機会が与えられることになりました。明治十八年、こうしてわが国初の公認の女性医師が誕生しました。吟子は三十四歳になっていました。

その後、東京と北海道で創院して医療に当たるとともに、女性の地位向上や差別や偏見のない社会の実現をめざして多くの功績を残していくことになるのです。



依瀬村
（たわらせむら）
現在の熊谷市俵瀬

令義解
（りようのぎげ）
養老令の私撰注釈書、貞観859年から877頃の成立。それまでに令を注釈した諸家の私説・古事を集大成した書。

参考 堺 正一『埼玉の三偉人に学ぶ』（埼玉新聞社）

奈良原春作『萩野 吟子』（国書刊行会）

心に残る「子どもの本」100選

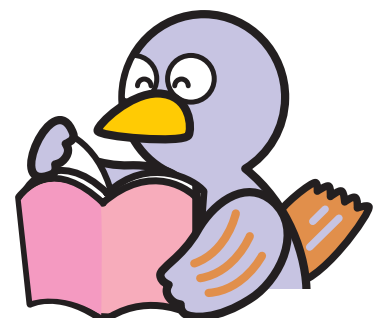


1	星のかけら Part I～III	名木田恵子	講談社
2	1リットルの涙	木藤亜也	幻冬舎〔ほか〕
3	きみの友だち	重松 清	新潮社
4	グッドラック	アレックス・ロビラほか	ポプラ社
5	友だちいないと不安だ症候群につける薬	齋藤 孝	朝日新聞社
6	博士の愛した数式	小川洋子	新潮社
7	ふたり	赤川次郎	新潮社
8	ぼくのじんせい	丘 修三	ポプラ社
9	かもめのジョナサン	リチャード・バック	新潮社
10	カラフル	森 絵都	理論社
11	THE MANZAI	あさのあつこ	ジャイブ
12	世界がもし100人の村だったら	池田香代子	マガジンハウス
13	世界は1つの生命からはじまった	村上和雄 葉祥明	きこ書房
14	翼のない天使たち	折原みと	ポプラ社
15	電池が切れるまで	すずらんの会・編	角川書店
16	ブレイブストーリー	宮部みゆき	角川書店
17	路傍の石	山本有三	偕成社〔ほか〕
18	金子みすゞ童謡集	金子みすゞ	角川春樹事務所
19	さぶ	山本周五郎	新潮社
20	車輪の下	ヘルマン・ヘッセ	岩波書店〔ほか〕

「心に残る『子どもの本』100選」は、本を介して「感動を伝えあい分かちあう」ため、児童生徒をはじめ県民の皆様から、中学生に薦めたい「心に残る子どもの本」とメッセージ（作文）を募集し、100点を選びました。そのうち中学生向けは5,751点の応募があり20点が選出されました。

埼玉県教育委員会 平成18年度事業

埼玉県子どもの読書ホームページには、「本を読もう」や「本の広場」、「埼玉県推奨図書」など本がたくさん紹介されています。本は心の栄養になります。



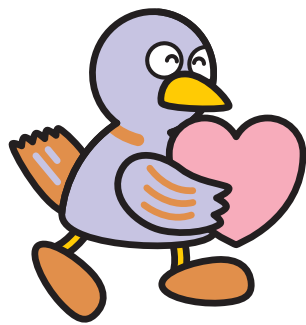
埼玉県道徳教育教材資料集（中学校版「自分をみつめて」）

○監 修 尾田 幸雄 お茶の水女子大学名誉教授
高島 元洋 お茶の水女子大学大学院教授
押谷 由夫 昭和女子大学大学院教授
蛭田 政弘 文教大学教授
鈴木 賢一 元埼玉県道徳教育研究会会長

○協 力 堺 正一 立正大学教授
宇宙航空研究開発機構 JAXA
川口市建設部河川課
さいたま市スポーツ企画課
日本サッカー協会
浦和レッドダイヤモンズ
横浜 F・マリノス
野口健事務所
アグネス・チャン事務所

○写真提供 熊谷市教育委員会
渋沢史料館
本庄市教育委員会
久喜市
（表紙）清水 勉

発行 埼玉県教育委員会（平成22年2月）
編集 埼玉県教育局県立学校部生徒指導課
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048-830-6745
FAX 048-830-4952
E-mail : a6740@pref.saitama.lg.jp



埼玉県のマスコット コバトン